

タイトル：日本の美容外科患者に対するハンディ麻酔装置(嗅ぎ注射器)の使用経験 3 症例の検討：石北 直之¹、石原信浩²、工藤 勝秀³、John Sczepaniak⁴

- 1 国立病院機構 洪川医療センター 小児、STONY
- 2 タウン形成外科クリニック
- 3 盛岡タウン形成外科クリニック
- 4 Sczepaniak Health & Medical Enterprises (SHME)

はじめに：手術室で用いられる吸入麻酔器は、多くの場合、重くて高価である。そのため、貧しい国、遠隔地、および外来診療所などにおける揮発性麻酔の使用が制限されている。新しいハンディ麻酔装置は、これらのニーズを満たすために、日本で開発された。

方法：3人の健康な女性患者が、このハンディ麻酔装置を用いた吸入麻酔で美容整形手術を受けた。年齢、身長、および体重を記録した。全ての症例において麻酔導入にセボフルラン 5-7 cc が使われ、局所麻酔を併用した。一つの症例は、手術終了時までセボフルランを用いて麻酔維持をした。セボフルラン平均肺胞内濃度 (MAC) は VEO マルチガスモニター (Phasein, Sweden) で監視し、CamStudio デスクトップレコーダーソフトウェア (eHelp Corporation, United States of America) で記録した。麻酔時間および手術時間を記録した。視覚的アナログ尺度 (VAS) を用いて術後疼痛/苦痛を評価しました。ハンディ麻酔装置の使い心地についても、術後に評価された。

結果：平均年齢、身長、体重は、38.7 才 (SD = 9.1)、153.3 cm (SD = 10.7)、50 kg (SD = 7) であった。これらの症例において、何ら緊急事態や静脈からの薬剤投与を用いることはなかった。患者は、セボフルランによって麻酔導入されたが、維持しなければ手術中に目を覚ますことが出来た。また、インプラントの快適さについて十分なフィードバックすることが出来た。セボフルラン維持された患者は、術中覚醒を起こすことはなかった。どの患者もハンディ麻酔装置の使い心地に対し不快感を報告することはなく、将来の手術で使用されることに反対しなかった。

ディスカッション：健康な患者の外科手術に、このハンディ麻酔装置は安全に使用することができる。

財務情報の開示や利害の対立：なし

石北 直之は嗅ぎ注射器の発明者で米国、欧州特許を取得している
(麻酔薬吸入補助装置及びそのアタッチメント) 米国 US9072859 B2、欧州 EP2589403 A4